

航空輸送の安全にかかわる情報の報告（平成 25 年度）（要約版）

1. 航空事故・重大インシデントの発生の概況

平成 25 年度において本邦航空運送事業者の運航に伴い発生した航空事故及び重大インシデントは以下のとおり。

○ 航空事故（3 件）

- ・平成 25 年 11 月 29 日、ANA ウイングス機（ボンバルディア式 DHC-8-402 型）が、福江空港に進入中、被雷により機体を損傷した。
- ・平成 25 年 12 月 31 日、アイラス航空機（ロビンソン式 R44 II 型）が、遊覧飛行中、低空飛行を実施し、機体の一部が海面に接触したため、沖縄県北部の古宇利大橋の東約 100 メートルの海上に墜落し、搭乗者 3 名が重軽傷を負った。
- ・平成 26 年 2 月 12 日、オリエンタルエアブリッジ機（ボンバルディア式 DHC-8-201 型）が、長崎空港において、6 回の連続離着陸訓練を実施し、着陸したが、4 回目の離着陸訓練を行った際、強めの接地となったことから、胴体前方外板を損傷した。

○ 重大インシデント（3 件）

- ・平成 25 年 5 月 6 日、ジェイエア機（ボンバルディア式 CL-600-2B19 型）が、大阪国際空港 A 滑走路に着陸後、地上走行中、A4 誘導路上において第 2 エンジン（ゼネラル・エレクトリック式 CF34-3 型）に火災が発生したことを計器表示があったため、当該エンジンを停止し消火装置を作動させた。その後、当該機は自走により駐機場まで移動し、エンジンに火災の痕跡が確認された。
- ・平成 25 年 9 月 10 日、関西国際空港において、管制官より A 滑走路の手前で待機するよう指示されていた朝日航洋機（ベル式 430 型）が、同滑走路に進入したため、着陸許可を受けていた全日本空輸機（ボーイング式 767-300 型）が管制官の指示により復行した。
- ・平成 25 年 12 月 13 日、全日本空輸機（ボーイング式 777-200 型）が、飛行中、第 2 エンジン（プラット・アンド・ホイットニー式 PW4074 型）の推力の低下及び排気ガス温度が高いことを示す計器表示があったため、同エンジンを停止し、航空交通管制上の優先権を要請のうえ引き返し、着陸した。

2. 航空法第 111 条の 4 の規定による報告の概況

平成 25 年度においては、本邦航空運送事業者から、航空法第 111 条の 4 の規定に基づき、航空事故 3 件、重大インシデント 3 件及び安全上のトラブル 850 件の合計 856 件について報告があった。

表 1：事業者別報告件数

ANA グループ	JAL グループ	日本貨物 航空	スカイマーク	エア・ ドゥ	スカイネット アジア航空	スターフライヤー	ヒュー・チ・ アビエーション	ジェットスター・ ジャパン	バニラ・ エア	その他
255	226	21	167	17	26	26	14	17	11	76

表 2：機種別報告件数

B737	B747	B767	B777	B787	A320	DHC-8 (-400 除く)	DHC-8 -400	CRJ	ERJ 170	SAAB 340B	その他
294	28	139	67	36	94	14	42	63	52	11	16

表 3：安全上のトラブルの内容別分類件数^{注 1)}

機材 不具合	ヒューマンエラー						回避操作		鳥等の外来物 による損傷	被雷	その他
	運航	客室	整備	地上 作業	設計 製造	その他	TCAS RA ^{注 2)}	GPWS ^{注 3)}			
381	43	4	37	3	11	2	171	14	50	118	16
	100						185				

注 1) 分類別の件数は、今後の要因分析の進捗により変更されることがある。

注 2) 航空機衝突防止装置の回避指示に基づく回避操作を表す。

注 3) 対地接近警報装置の指示に基づく回避操作を表す。

3. 安全上のトラブルの評価・分析と今後の対策

第 15 回航空安全情報分析委員会において、平成 25 年度の安全上のトラブル等について審議した結果、それぞれの事案について、関係者により必要な対応がとられており、引き続き適切にフォローアップを行っていくべきことが確認されました。

また、引き続き、安全上のトラブル等の航空安全情報の分析に基づき、機材不具合への対応、ヒューマンエラー防止への取組み、TCAS RA や GPWS による回避操作に係る情報共有を進め、このような個別事案への対応を適確に行うとともに、航空運送事業者の事業規模拡大による航空を取り巻く環境変化にも十分配慮し、監視・監督の強化、予防的安全対策の充実等を図ることが必要であるとの評価を受けています。